女子テコンドー山田美諭選手
東京オリンピックで活躍
城北信用金庫

けがを乗り越えオリンピックに出場

城北信用金庫「城北アスリートクラブ」所属の山田美諭選手は、女子テコンドー・49㌔級日本代表として東京オリンピックに出場し、5位入賞を果たした。2016年のリオデジャネイロ五輪の際は、同年1月の最終選考会で右ひざの前十字靱帯を断裂して出場できなかったが、厳しいリハビリや練習を乗り越え、念願だった五輪の舞台で持てる力を発揮した。

同選手はアスリート職員として同年4月に入庫し、基本的には競技に専念しているが、依頼に応じて地域のテコンドー教室や講演会などにも参加している。また、週1回出勤するコミュニケーション開発事業部で活動報告書や経費処理などを担当している。

山田選手は「上司や同僚からはいつも温かく励ましの言葉をかけてもらい、五輪前には『楽しんできて』と見送ってもらった。私が大切にしているのは感謝の気持ちを忘れない、初心を忘れないこと。入庫前に靱帯の怪我で手術することになり、そんな状況でも採用してくださった城北信用金庫と、1年間のリハビリ生活で自分が辛い時に支えてくれた人たちに結果で恩返しをしたい。それを原動力に頑張ることができた」と話す。

東京五輪日本代表選考会―城北信用金庫

また、初出場の五輪を振り返り、「試合自体は変わらないが、周りの雰囲気や緊張感が全然違う。前回大会のリオから5年間五輪に懸けてきた対戦選手の気迫が試合に出ていたし、向き合ってすごく感じた。注目度の違いにも驚いた。ただ、選手の間で決めていたことが一つあって、『どんな結果であっても胸を張って帰ろう』。それを思い出して肩の力がすっと抜けた。いざ試合になると、これまでで一番冷静に落ち着いて心と体のバランスがとても良い状態で試合に臨めた。コーチの声がはっきり聞こえて、相手の動きを冷静に見ることができた。これまでやってきたことを100%出すことを一番に考えていた」と回想する。

山田選手の活躍が地域の人の心を動かす

今回の五輪出場に、金庫内でもかつてないほど合自体は変わらないが、周りの雰囲気や緊張感が全然違う。前回大会のリオから5年間五輪に懸けてきた対戦選手の気迫が試合に出ていたし、向き合ってすごく感じた。注目度の違いにも驚いた。ただ、選手の間で決めていたことが一つあって、『どんな結果であっても胸を張って帰ろう』。それを思い出して肩の力がすっと抜けた。いざ試合になると、これまでで一番冷静に落ち着いて心と体のバランスがとても良い状態で試合に臨めた。コーチの声がはっきり聞こえて、相手の動きを冷静に見ることができた。これまでやってきたことを100%出すことを一番に考えていた」と回想する。

山田選手の活躍が地域の人の心を動かす

今回の五輪出場に、金庫内でもかつてないほど盛り上がった。自分ことのように山田選手の活躍を喜び、五輪の国内最終選考会には岐阜の会場まで応援に駆けつけた職員もいた。五輪出場後の報告で各支店を回った際に、皆から「試合を観たよ」と声を掛けてもらいや経験を伝えることで、テコンドーを多くの人に知ってもらい普及につなげたい。地域に寄り添いもっとつながりを持てるように、自分のできることをしっかり行って少しでも金庫に貢献できたら」と将来ビジョンについて話している。

東京五輪でコーチと話す山田選手

城北信用金庫のアスリート支援

城北信金は安心して競技活動に専念できる環境を選手に提供することで、若い世代の「世界の頂点に向けたチャレンジ」を全面的に応援している。同時に選手の現役引退後も見据え、業務や地域社会との関わりなどの機会を可能な限り提供することで、高い人間性や広い視野を持った社会人として育成したいと考えている。

スポーツが持つ社会的価値への理解を広め、より豊かな地域づくり・社会づくりに貢献していきたいという思いから2016年7月、「城北アスリートクラブ（Johoku Athletes Club）」を創設し、現在5人の現役アスリートが職員として所属している。具体的には、フェンシング、テコンドー、カヌー、フリースタイルスキー・ハーフパイプなどのマイナースポーツとなっている。採用には、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）が推進する、企業と現役トップアスリートをマッチングする就職支援制度「アスナビ」を活用。採用方法は面接が中心で、山田選手の場合は本人の熱意や人間性に加え、アスナビで披露した鋭りの美しさを見てテコンドー競技に魅力を感じて採用に至った。

一日警察署長―城北信用金庫

マイナースポーツでは、学生を終えると選手を続ける環境がなく、引退する選手が多い。特に、女性アスリートは妊娠出産などのライフステージが多いため、企業から敬遠されがちであることから、同金庫では、少しでもこの課題を解消したいという思いで、マイナースポーツに取り組む女性アスリートを支援している。

アスリートを支援することのメリットは主に次の二つが挙げられる。

①スポーツが持つ社会的価値への理解を広め豊かな地域づくりに貢献

スポーツは、教育・ビジネスなど多面的な価値があり、どんな場面でも受け入れられやすいため、アスリート職員が地域の小中学校で講演会や体験教室を開催し、スポーツを一緒に楽しむ機会を設けている。アスリートを採用することで、スポーツの魅力を広め、すそ野を広げる活動ができる。

②職員の士気向上、一体感の創出（インナーブランディング）

アスリート職員が全力で競技に向き合う姿勢、発信するメッセージ、選手自身の人間としての成長などを通じて、共に働く金庫職員に良い影響を与える。そして、職員全員が一体となって同僚のアスリートを応援することで、一体感を生み出すことができる。

特に、今回の山田選手の活躍に対して、庫内にオリンピアンがいて、一緒に仕事をしていることの素晴らしさを周囲に実感してもらえた。

山田選手は「信用金庫で働くまでは、金融機関には堅いイメージがあったが、城北信金はアスリート採用やクラウドファンディングなど、金融にとどまらない多様なサービスや独自のブランディングに幅広く取り組んでいて、金融機関の見方が変わった。スポーツという切り口で地域の皆さまと交流を持てるのは、当金庫だからこそできること」と話す。

職員から応援してもらい、興味を持ってもらえるように同クラブ事務局ではさまざまなコンテンツを企画しているものの、全員に共感してもらうのは難しい面もある。営業や窓口の職員とお客さまとのコミュニケーションに活用してほしいという思いもあり、試行錯誤しながら取り組んでいる。

地域貢献の一環としての活動

五輪出場後は、山田選手に各方面から声が掛かっている。9月30日、アスリートキャリアサポート事業「企業向け説明会」に登壇したほか、10月18日には、王子警察署の一日警察署長を務めた。同金庫王子営業部王子銀座出張所にて、特殊詐欺対策キャンペーン「ストップ・ATMでの携帯電話」対策の協力を呼び掛けるチランと防犯グッズの配布を行うとともに、警視庁公式YouTubeでは、詐欺被害防止のため、家族や地域の方の協力を呼び掛けるアスリート職員の活躍に注目したい。